

令和6年度

上八万中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 心豊かにたくましく、未来を拓く生徒の育成
- ・授業改善（ICT の活用、指導技術の向上）をはかり、わかる授業を展開する。
- ・信頼を基盤とした学級経営により、「主体的・対話的で深い学び」の実現。
- ・全教職員で取り組む、ポジティブ行動支援体制づくり。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	谷口睦子	2年主任	前田貴美
		教頭	三島令子	3年主任	清水 勝
	水口 かおり	教務主任	濱井洋典	1 年主任	岩根初絵

校長

谷口 睦子

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いており、ワークなどの基礎演習問題をこなすことができる。 ●発展問題など、難しい問題を工夫して解くことが苦手。	・解き方を工夫しながら、発展問題にも積極的に取り組む姿勢が見られる。 ・問題文の意図、グラフ等が示す意味などを正確に読み取ることができる。	・単元の終わりに小テストを実施する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う参観ウィークを設定する。 ・「何を・なぜ・どのように学ぶか」が生徒に伝わるよう、マグネットカードを使いながら[めあて][まとめ][授業の流れ]を提示する。		・多くの授業で小テストの実施、また相互授業参観も実施することができた。 ・教員アンケートで「授業中、発展問題に取り組む生徒の姿が増えたか」という問いに肯定的に回答した教員は約8割であった。	各教科からの課題は真面目に取り組む生徒が多いが、自分で目標を立て、学習に取り組む生徒は多くない。各教員が自身の授業を振り返ったり、協議したりする機会を持ち、自律学習ができる生徒育成を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書き出すことや友達に自分の意見を聞いてもらうことが好きである。 ●根拠や理由を交えたり、文を簡潔にまとめたりして、人に分かりやすく伝える工夫をすることが苦手である。	・根拠や理由をもって自分の意見を書いたり、述べたりすることができる。 ・人に分かりやすく伝える工夫ができる。	・『とくしま授業技術の基礎・基本』を参考にしながら発問の仕方を工夫する。 ・生徒用タブレットの活用案を教員間で共有できるように研修を実施する。 ・生徒が付箋やホワイトボードを使って、自分の考えを書き留めたり、ペアやグループで意見交換したりする場面を増やす。		・生徒用タブレットやその他の ICT 機器を用いた研究授業と授業研究会を実施することができた。 ・生徒が論理的に考えたり、またそれを文章化したりする活動には課題が見られる。	論理的に考え、表現する力を育成するために、道徳や学活の時間なども利用しながら、意見交換の場面を増やす。どのような議題が生徒の思考力・判断力・表現力の向上につながるか各教員が考え、共有する機会を持つ。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に取り組むことができる。友だちと協力しながら学習することが好き。 ●テスト前のみ勉強したり、難しい問題はすぐに諦めてしまう生徒が多い。自ら課題を見つけたり、課題克服のために計画を立てることが苦手である。	・自分の将来の夢や進路に関連づけながら、短期目標と長期目標を自ら設定することができる。 ・目標達成に向けて、具体的な計画を立てたり、分からないところは自ら質問したりすることができる。	・『阿波っ子のみらい』を定期的に振り返りながら、教科の面白さを伝えられる授業になるよう授業づくりを工夫する。 ・キャリアビジョンをえがく力の育成を目指して、具体的なキャリア教育年間計画を各学年で立て、実践する。		・さまざまな職業や進路について考えられるように各学年で計画的なキャリア教育を行うことができた。 ・目標達成のために自ら計画したり、質問したりする生徒の育成は次年度以降も課題であると言える。	目標達成のために自ら計画したり、質問したりする生徒の育成を目指し、生徒が試行錯誤しながら学習や体験ができる授業内容を考えたり、年間計画を立てたりする。

令和6年度 学力向上ロードマップ

